記 者 発 表

平成２１年１０月２２日
東北地方建設副産物
対策連絡協議会

～建設リサイクルに顕著な実績のあった３団体を表彰～

建設リサイクル推進奨励表彰「10 月 27 日　東北地方整備局応接会議室」

東北地方建設副産物対策連絡協議会（委員長：東北地方整備局長）は、「建設リサイクル推進奨励表彰」として、建設リサイクルに顕著な実績のあった３団体を表彰します。

表彰式は１０月２７日（火）に、東北地方整備局　２Ｆ応接会議室で行います。

東北地方建設副産物対策連絡協議会では、「建設リサイクル推進奨励表彰」を平成６年度から実施しています。

これまでに、９９団体等が表彰されており、１６回目となる今年は、顕著な実績のあった３団体を表彰します。

日　　時：平成２１年１０月２７日(火) １３：３０～１４：００
場　　所：東北地方整備局　２Ｆ応接会議室（二日町庁舎）

表　彰　団　体

○岩手県立花巻厚生・北上総合病院（仮称）新築（建築）工事
　(株)竹中工務店・(株)佐々木組・(株)佐賀組　特定共同企業体
○社団法人　西村山建設業協会
○前田道路株式会社 東北支店 仙台合材工場

〈発表記者会：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会〉

問い合わせ先
東北地方建設副産物対策連絡協議会 事務局
国土交通省 東北地方整備局　仙台市青葉区二日町９－１５
TEL 022-225-2171(代)
企画部 事業調整官　　浜岡　正　（内線３１１６）
企画部 技術管理課長　加藤　信行（内線３３１１）

平成21年度
建設リサイクル推進奨励表彰
表 彰 式

日時：平成21年10月27日(火)　13時30分～
場所：国土交通省 東北地方整備局

式 次 第

1 **開会**

2 **協議会委員長あいさつ**

東北地方建設副産物対策連絡協議会委員長
国土交通省 東北地方整備局長
青山　俊行

3 **表彰状授与**

・岩手県立花巻厚生･北上統合病院(仮称)新築(建築)工事
　(株)竹中工務店･(株)佐々木組･(株)佐賀組特定共同企業体
・(社)西村山建設業協会
・前田道路(株) 東北支店 仙台合材工場　(五十音順)

4 **閉会**

主催　東北地方建設副産物対策連絡協議会

協議会構成機関

国土交通省 東北地方整備局／農林水産省 東北農政局／青森県／岩手県／宮城県／秋田県／山形県／福島県／仙台市
(独)都市再生機構／(独)鉄道建設･運輸施設整備支援機構 鉄道建設本部 東北新幹線建設局
(独)鉄道建設･運輸施設整備支援機構 鉄道建設本部 東京支社／日本下水道事業団 東北総合事務所
東日本高速道路(株)東北支社／(社)日本土木工業協会 東北支部／東北建設業協会連合会／(社)日本道路建設業協会 東北支部
日本アスファルト合材協会 東北連合会／(社)建設コンサルタンツ協会 東北支部／(社)日本埋立浚渫協会 東北支部

受賞者紹介

◆岩手県立花巻厚生・北上統合病院（仮称）新築（建築）工事 （株）竹中工務店・（株）佐々木組・（株）佐賀組特定共同企業体

型枠工事での南洋材とCO_2の削減への取組みとして、薄肉PC版による地上外壁型枠の削減、床型枠のデッキプレート化、免震階床のモクセン板による打込型枠の採用、最下階床の断熱材打込型枠の採用等の工法変更により木製型枠材の削減を図った。

同一敷地内で4つの事業者が同時に工事を進める中、実際に分別する作業員誰もが排出事業者と品目を見てすぐ判断できる分別ヤードの整備を行い、産業廃棄物を12種類、一般廃棄物を6種類に分別収集し、混合廃棄物ゼロと総排出量の削減に成功した。また、リサイクル可能な中間処理業者を採用することでリサイクル率の向上を図ることができた。

◆（社）西村山建設業協会

建設工事において、発生量が多い建設発生土はリサイクル率が低く、多量の建設発生土が最終処分されているため、貴重な最終処分の容量を少なくすると共に自由処分されていることにより、田畑や山林が埋められるばかりか不法投棄も社会的問題になっている。また、新材を採取することによる自然環境への影響も危惧されている。

このようなことから、工事現場で発生した土質的不適合な軟弱土を、2箇所の改良センターにおいて生石灰を混合することにより、改良土として工事現場に再利用を図っている。

これにより、発注当局によるリサイクル意識の向上効果、新材の抑制効果、最終処分場の延命効果が図られた。

◆前田道路（株） 東北支店 仙台合材工場

宮城県や仙台市の下水処理において発生する下水汚泥焼却灰をアスファルト混合物の材料であるフィラーの一部に使用する試みは、平成15年度より検討されてきた。これにより、天然資源であるフィラーの使用量抑制、資源化による環境負荷軽減などが期待できる。

これまでの検討結果より、焼却灰入りアスファルト混合物は、通常の混合物と同等の供用性能を有し、環境安全性に関しても何ら問題のないことが確認され、宮城県では平成19年1月より事業化されるに至った。

今後とも、循環型社会の構築に寄与するため、リサイクルの推進に取り組む予定である。

五十音順

建設リサイクル推進奨励表彰とは

かつて建設工事によって発生する土砂やコンクリート塊等の建設副産物は、受け入れ適地や処理施設の不足により処理コストが増大し、不法投棄等の問題が生じていることから、その対策が建設工事を円滑に推進するための緊急かつ重要な課題となっていました。建設副産物は本来、多くが安全で資源としての再利用が可能なものであり、資源の有効活用、環境保全、コスト縮減等の観点から、建設副産物の発生量を抑制することはもちろん、最終処分量の低減を図るとともに、リサイクル推進を実施していくことが重要です。こうした背景の下、リサイクル推進およびその普及啓発活動の一環として、建設事業に係わる廃棄物の減量、資源の再利用等、東北地方においてリサイクル活動に顕著な実績をあげている個人・団体を、東北地方建設副産物対策連絡協議会（委員長：東北地方整備局長）より表彰しているものであり、平成6年度から平成20年度までに99団体等を表彰しています。

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。